

賢いはたらき方のススメ🕒

島田晴香さん



自分に合った仕事を見つけたい、次のステップに進みたいと考える人は多いだろう。芸能という世界でもそれは同じようだ。アイドルとして活躍しながら、卒業や引退、違う道を模索している人は多いという。しかし、どんな世界でもセカンドキャリアに進むには勇気がある。「アイドルとしてやりきった。AKBは私が育った場所なので恩返しをしたい」と、アイドルグループAKB48を卒業後に社会人としての経験を積みながら、後輩たちのセカンドキャリアを支援するために起業した、島田晴香さん。夢をかなえるためにやるべきことはすべてやるという島田さんに、ビジネスに通じる、次のステップに一步踏み出すために蓄えたいチカラ、自分の夢を実現するための秘訣を伺った。

AKB時代の存在価値を活かす、恩返しのセカンドキャリア

— AKB48に入るきっかけ、アイドル時代の生活について教えてください。



島田：スポーツが大好きでテニスをやっていましたが、高校2年生の時に挫折し、次はどうかと考えていました。そんな時にテレビでAKB48の9期生のオーディション告知があったのです。ほんやりと芸能界に興味や憧れがあったので受けてみようと思ったのがきっかけです。デビュー後は、静岡県三島市の高校に通いながら、放課後に秋葉原に行くという生活をしていました。

卒業後は日本大学商学部に入學したのですが、芸能活動が忙しくなり、中途半端にはしたくないという思いがあったので4年間休学しました。その後復学しましたが単位が足りず、卒業はできないまま終わってしまいました。でも、少しですが大学生生活を体験できたことで、後悔はありません。

— AKB48に8年間在籍して感じたことは？

島田：私は9期生で次世代と呼ばれていましたが、やはり前田敦子さんなどの1期生は唯一無二の存在で、AKB48がここまで第1線で活躍できたのは、先輩たちの頑張りのおかげなんです。だから、先輩たちが卒業してもしっかりとこの世界で残れる土台を作らないといけない、先輩たちに恥じないようなメンバーにならないといけないという存在価値をどうやったら見出せるかな、どうやったら恩返しができるだろうかと常に考えていました。その思いが、卒業後の夢につながっていると思います。

賢いはたらき方のススメ ㊦

— AKB48の卒業を決めた段階で次のステップは考えていたのですか。

島田: はい。2017年12月に芸能界を引退して、翌年1月にロンドンに語学留学しました。

— 早い展開ですね。

島田: そうですね。両親にも驚かれたほどです。卒業の時期を決める前に、留学を決めていました。もともと、ずっとテニスをやっていて、人と話すことが好き、サポートをしたいという思いがあり、スポーツマネジメントという仕事に就きたいと考えていました。そのためにはどうすればいいのだろうといろいろ調べて、周りの人に聞いたりして、英語が話せないと難しいとわかったので、まずは語学留学しようと決めていたのです。いろいろな国の人と触れ合いたいという気持ちもあったので、躊躇なく進むことができました。

日本を飛び出してわかった、個人を大切にせる感性と伝え方

— 1年間の留学を通して何か変わりましたか？



島田: 国内にいただけでは味わえない体験をしました。差別も受けました。とても悲しい気持ちになりましたが、日本にとどまっているだけではそういう感情も生まれなかったかもしれないので良い経験だと思います。差別を受けた時に、きちんと言い返せなかったんです。自分の言葉できちんと言い返すにはもっと語学力を鍛えないといけないと奮起することにつながりました。悔しい気持ちがバネになって勉強するスイッチが入りましたね。

いろいろな国の人と話していると、日本では当たり前のことが当たり前ではないこともわかってきました。そして、海外の人は個人の考えをとっても大切にするんですね。日本では、協調性を第一に考えることが多かったり、ちょっと控えようと思うこともありますよね。でも、海外に行って、もっと自分の意見を言っているんだと思ったんです。ただ意見を言うのではなく、その時々に応じて、相手に応じた伝え方がきちんとできれば、解決できると思うんです。日本語は同じ意味でもいろいろな言葉がありますよね。それを何でもっと早く学ばなかったんだろうと思いました。人と話すのが好きだからこそ、そういうところに気づけばよかったなと。海外での生活を通じて日本語の素晴らしさもあらためて実感しました。

— スポーツマネジメントの夢からセカンドキャリアを支援する夢へと変化したきっかけは？

島田: 留学中に、海外のスポーツ選手と話す機会があり、話をしていると、皆さん、引退後のセカンドキャリアについてきちんと考えているんですね。

それを自分に置き換えた時に、私が今歩んでいるのがセカンドキャリアのためだと気づいたんですね。芸能界ではあまり考えていないかもしれないと思ったんです。当時はセカンドキャリアという言葉自体、広く知られているものではありませんでした。

賢いはたらき方のススメ ㊦

もし、アイドルを卒業する前に、5年後を考えて計画的に行動していたらどうなっていたのだろうか、卒業して外の世界にいる先輩から話を聞く機会があったらもっと世界が広がっていたのかもしれないと気づき、いろいろ聞いてみたら、卒業した人たちの中には、アルバイト経験がないから社会に出てもコンプレックスになっていたたり、パソコンのスキルがなくて苦勞していたり、学歴コンプレックスに悩んでいたりとということがわかってきました。

スポーツマネジメントをやりたいと考えた原点は、人と関わることが好きで、人を支えたいという気持ちから発生している夢なんです。セカンドキャリアはスポーツ選手だけではないと思います、社会経験を積んで自分が体験して、アイドルがどういう立ち位置でビジネスに関わっているかを考えようと思いました。



自分の足できちんと立つために社会経験を積む

— セカンドキャリアを支援するために、帰国後はどうされたのですか。



島田: アイドルがビジネスに関わる強みを知るためにも、私が経験しないと説得力がありません。自分を鍛え直すために社会経験を積もうと思い、広告代理店に就職しました。

2年間、雑誌広告部の営業に携わりましたが、就職してから半年ほどは、パソコンがうまく使えず大変でした。営業という職種に慣れなくてすごく悩みましたし、お酒でストレス発散していました。苦しすぎて、アイドル出身だと普通の社会人になれないんじゃないかと思った時もありました。

— 会社員として働いて、どのようなことが起業につながりましたか。

島田: 「アイドルだったからアルバイトの経験もないからできないよね」と言われることもありました。仕事をするうえで必要最低限のこともわかっていなかったんです。

でも、パソコンのスキルが身についてきて、営業職に慣れてくると、今こういうことを求められているから、こういう企画を出してみようと思えることが楽しくなりました。

そこで、セカンドキャリアをスムーズにするためには、社会人としての最低限の技術を学んでおいたほうが良いと思いました。挫折しないように、楽しく仕事を続けられるようにするには、パソコンスキルやビジネスマナーなど、私が苦勞したことをプログラムとして開発して、それを習得してから仕事のマッチングができるようにすると思ったんです。

アイドルの強みはビジネスの頼もしいチカラになる

— アイドルのセカンドキャリアを支援する株式会社Dctは、島田さんの社会人としての経験を盛り込んで立ち上げたのですね。

島田:人と関わるのが好きなので、いろいろな人と知り合いになることができました。起業にあたって相談できる人、プログラム開発を一緒に行ってくれる人など、社会人になってから人脈を広げていきました。

開発したプログラムは、私が最初に4カ月間受けて、改良の工程を繰り返し、約8か月かかって完成しました。2020年に起業して、プログラムが完成したのが2021年。2022年4月にプログラムを受けた1期生3人が就職し、これまでに合計7人が就職をしました。

— プログラムではどのようなことが学べるのでしょうか。

島田:社会人として必須のスキルと、キャリアに特化した専門スキルを提供しています。ビジネスマナーはあいさつや言葉遣いなどの基礎から。PCスキルとして、パソコン用語から、オンラインツールの活用法、プレゼン資料作成、セキュリティリテラシーなど。ほかに、ビジネスの構造や自分の市場価値の考え方を学ぶプログラムもあります。

— アイドル卒業後のセカンドキャリアとしてどのような職種が適していると思われますか。

島田:AKB48はファンと接する機会が多いので、コミュニケーション能力やSNSの運用能力、セルフプロデュースが上手な人が多いですね。人の考えていることを瞬時に察知する能力に長けている人も。

これらをビジネスに変換すると、広報企画や受付、秘書などで活躍できるのではないかなと思いました。マッチングする企業からのリクエストでも、そういった職種が多いですね。もちろん、一人ひとりめざしたい方向は違うので、プログラムは本人の意思に沿うように組んでいきます。オンラインのマンツーマンで受けられるので、取り組みやすいと思います。

— 起業してから、後輩アイドルの相談などは増えましたか。

島田:アイドルも25歳を過ぎると、このままでいいのかなと悩む人は増えてきます。相談されることは増えましたね。最初に1時間ほどのミーティングを設けます。どういうことに悩んでいるのか、これからやりたいことはあるのか、なぜプログラムを受けようと思ったのかなど、その人のことをとにかく知ってからいろいろなプランを一緒に考えるようにしています。



賢いはたらき方のススメ ㊤

私から“あなたにはこういう仕事が向いている”とは言いません。「**あなたが選択をして、悔いのない人生を歩んでほしいから、きちんと自分で選んでください**」と伝えます。アイドルをしていたからといって、一般社会人になってからもその経験は決して無駄にはならないと思います。**アイドルをやっていたことを後悔してほしくない**という思いがあるので、今もAKBグループを応援しているし、恩返しをしたいという気持ちも強いですね。最近、俳優や子役で活躍していた方からの相談も受けるようになりました。一度社会人として働きだしたけれど、挫折してしまったという方も。

社会人になると、「アイドルだったから知らないよね、できないよね」と言われることもあります。私もそうでした。私の場合は負けず嫌いなのでそこで奮起できますが、落ち込んでしまう人もいるから、自信を持ってもらいたいです。**自信がつけば、跳ね返せることも増えます**。プログラムが自信を持てるきっかけになればうれしいですね。



セカンドキャリアを成功させるために、ファーストキャリアの骨組みから考える

— 新たに、ライブ配信を職業とする「ライバー」への支援も始められたと聞いています。

島田: はい。ライバーもアイドルと同じく人気商売です。10代の子もいれば、主婦もいます。今後どうしていこうかという相談を受ける機会も増えていました。縁があって、ライバーの事務所「LIVE GO」からセカンドキャリア支援も含めて顧問もしています。まずは新しい職業でもある**ライバーの土台からしっかりとした骨組み**を作っていないと、セカンドキャリアにつなげることが難しいと思うので、これから継続して支援していこうと思っています。

女性がもっと夢や目標を持ち続けられるようにサポートするのが目標

— 島田さんの今後の目標は何でしょうか。

島田: 会社を立ち上げた時のもう一つの目標が、**女性の社会進出をサポートすること**なんです。女性のライフステージは、結婚や出産などがあり、お母さんという役割が大きくなります。でも、**自分の夢や目標も持ち続けてほしい**んです。そのためには、働く環境や働き方を考えていきたい。手に職をつけることをもっと支援できたらと思っています。現在の**アイドルのセカンドキャリアのプログラム**をゆくゆくは一般の方にも受けていただけるように展開していくのが目標です。

なりたい自分、夢に向かって逆算してすべきことを書き出すことが大切

— 島田さんのように将来やりたいことを実現するにはどのように目標設定すればいいと思いますか。



島田: 私の場合は、**3年後、5年後になりたい自分、理想の自分像をとにかく書きます**。コピー用紙の裏でもなんでも。5年後にこういう自分になっているためには、**どういうスキルが必要か、お金持ちになりたいなら5年後貯金額をいくらにした**いかなどを設定して、逆算をして現在のスケジュールを立てます。慣れないうちは半年後の目標設定でもいいと思います。そして、**日頃から周りの人に自分のやりたいことを伝える**ようにしました。そうすることでさまざまな情報を教えてもらえるし、実現に近づけると思います。

起業する時には、「**2022年4月には1名以上の元アイドルを就職させたい**」という目標を立てました。そのために、プログラムを認知してもらうにはどうすればいいかなどを考えて行動していました。

— ご自身の経験をきちんと形にできる原動力は何だと思われますか。

島田: やっぱり**負けず嫌いの性格**だと思います。あとは、**私の考えを聞いてくれてアドバイスしてくれる人に恵まれていること、今も支えてくれる人がたくさんいること**が大きいと思っています。

違和感があれば相手に伝える、モヤモヤはその場で解消する

— 仕事をスムーズに続けていくうえでこだわっていることはありますか。

島田: 話をしていて、心の中で引っかかることがあればその場で「それはどういう意味だろう」と確認します。**モヤモヤしたまま1日が終わってしまうのが嫌**ですね。もちろん、言わないほうがいいだろうと直感で思うことは言わないですし、これは相手に伝えたほうがいいと思うことは仕事でもプライベートでも言います。それで誤解がとけることは多くて、解決することも多いので。

賢いはたらき方のススメ ㊦

仕事を一緒にするかしないか、信用できるかどうかは、**最初にお会いした時のフィーリング**で判断します。少しでも違和感があればやめることも大切だと思っています。体験して失敗しないと身につかないこともあります。私の場合、**実家が旅館**を営んでいるから、小さなころから親のそばでお客さまとの接し方を見てきました。そういう環境で育ってきたことが大きいのかもかもしれません。旅館という仕事をずっと見てきたことで、**言葉遣いや人との距離感**を学んだと思います。



地元、熱海の活性化、旅館業という文化で守っていききたいこと

— 地元の熱海で、ご実家の旅館の若女将としての顔もお持ちですね。

島田：旅館はホテルと違って、独自の文化やマナーがあります。しかし、海外からのお客さまが増えたり、コロナ禍など時代の変化で変えていかなければいけない部分もあり、難しいと感じています。**旅館としての文化は残したい、だけど時代の流れも考えなければいけない**、人手不足の問題もあるなど、守りたい部分と変えていかなければならない部分があります。跡継ぎがない店舗なども増えていて、地域全体の変化がないと進んでいかないと思っています。熱海に長く暮らしている人がこだわる部分と、外で暮らしている私などがわかることもあります。**流行などの情報もシェアしながら、地域の文化として継承していくのが理想**です。

— 伊豆山の土石流災害の際には、クラウドファンディングで支援をされていますが、ご自身から発したのですか。

島田：はい。AKB48の選挙の際に、地元の熱海の方々が私のポスターを制作して応援してくれました。そのことを知らなくて、ファンの方から教えていただいて驚きました。すごうれしかったです。でも選抜に入れずに恩を返せなかったと思っていました。以来ずっと**いつかは恩返しをしたい**と思っていたので、災害を知った時に自分の持つ力を最大限に使って何ができるだろうと考えて、クラウドファンディングで自分が発信することで、全国に拡散してもらえと思いました。おかげで目標金額以上を達成できました。

— 島田さんの人生は、恩返しをすることで前向きに進んでいるんですね。

島田：そうかもしれません。**お世話になった人への感謝の気持ちを忘れてら終わりだな**と思っています。両親や地元の人、起業でサポートしてくれる人たちも、お世話になった人には恩返しプラス、幸せでいてほしいんです。**恩返しと幸せ**という2つのワードは私の心の中で大きく占めています。

賢いはたらき方のススメ🕒



取材後記

島田晴香さんの夢に向かってしっかりと目標を立てて一つずつ実現していくチカラにとっても感銘を受けました。アイドル時代も、会社員時代も、そして起業家としての今も、島田さんは全力投球しています。10代ではテニスで挫折したり、会社員としてスキルがなくて悩んだりなどの壁はあっても、いつもご自身に正直に歩んできたから、支えてくれている人への感謝の気持ちや、「恩返し」という発想が生まれるのだらうと思いました。お話を伺えてとても楽しい時間でした。これからの活躍を楽しみにしています。

プロフィール

島田晴香さん

アイドルグループ「AKB48」の第9期生メンバー。2017年グループ卒業、芸能界を引退し、英国ロンドンへ留学。帰国後に広告代理店勤務を経て、2020年に後輩アイドルのセカンドキャリアを支援する会社「株式会社Dct」を設立。2023年10月、ライブ配信事務所「LIVE GO」の顧問に就任。職業ライバーのセカンドキャリアの支援を開始。また、地元の熱海で両親が営む「旅館 立花」の若女将として運営をサポート。熱海伊豆山の土砂災害時にはクラウドファンディングで資金を調達するなど地元への貢献度も高い。2023年11月に結婚を発表。

